

# 畠山重篤さんってどんな人？

5107K

## 1 テーマ設定の理由

海と山は、全く関係がないとおもっていましたが、ですが、畠山重篤さんの「森は海の恋人」活動は、とても海と山が関係することでした。畠山さんは、山に木を植えて、その木の養分が、気仙沼の大川をつたって海にながれ、気仙沼のプランクトンが育ちカキの養殖にとっても良い影響ををあたえていると本に書いていました。私は、この活動が、とてもすばらしいとおもい、このテーマにしました。いま、畠山重篤さんは、気仙沼市唐桑町の NPO 法人「森は海の恋人」の、理事長をやられています。森は海の恋人運動は、今年（2014年）で、26年目だそうです。毎年たくさんの方が参加しています。畠山重篤さんは気仙沼の海を豊かにしようと日々努力しています。そんな畠山さんのことを詳しく調べてみようと思いました。

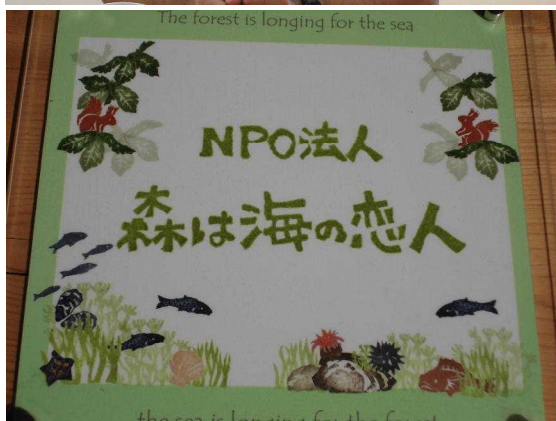
## 2 研究内容

### (1) 森は海の恋人

この活動は畠山重篤さんがつくった活動なのです。森は海の恋人とは、平成元年（1989年）の6月に始まりました。畠山重篤さんが留守でしたので、畠山さんの息子のまことさんにお話をうかがいました。



森は海の恋人とは、海だけ、山だけ、と自然を見るのではなく海と山を1つの生き物として守る活動なんだそうです。「畠山さんは、養殖業を営む中で、かきの品質低下を招く赤潮の原因は、流入河川の水質悪化だと気づき26年前から気仙沼湾に注ぐ大川上流の一関市室根町の山に広葉樹を植える活動続けている」（平成26年9月18日三



陸新聞より) 広葉樹の種類は、檜(なら)、みず檜、こ檜、楓の仲間など、40種類くらい。その年によって変わるそうです。

## (2) かきの養殖へのえいきょう

かきは、主にプランクトンを食べます。大人の手一個分のかきは、200リットルの海水の中のプランクトンをたべます。そのプランクトンたちは、どうやって育つのでしょうか。答えは山にありました。山に、雨が降ると木の養分が雨水といっしょに土にしみこみ川に流れます。すると、その養分で、プランクトンが、育つのです。気仙沼の海で育つかきは、すごくいいプランクトンを食べているのです。



## (3) 今の海の状態

森は海の恋人活動をはじめて今年で(2014)26回目ですが、海が変わってきたということは、はっきりとはわからないのだそうです。わかるのには100年くらいかかるそうです。

いまの海は、震災前の海の状態とはちがうんだそうです。今の海には、震災前にはいなかった生物も、震災後生息するようになりました。

## 3 今後の課題

「森は海の恋人」運動にも毎年多くの人たちが参加していると伺いました。これからも引き続き、たくさんの人に植樹活動に参加してもらうための工夫としてどんな取り組みをしているのか。課題と感じ、質問しました。

最初の年だけインターネットや広告で宣伝してそうです。そのあとは、毎年参加してくれる人達が口コミで広めてくれて、今はとくに宣伝などはしていないそうです。

宣伝をしていなくても、毎年多くの人たちが参加するということは、海や森の環境問題にみんな関心があるのではないかと思います。

## 4 感想

調べるのは大変でした。なぜなら、畠山さんはいつも気仙沼にいるわけではないからです。途中でテーマをかえようかなあと考えたときもありました。でも先生や家族が励ましてくれたので調べることができました。

分かったことは、山に木を植えると木の養分が雨水と一緒に地面に染みこみ川に流れ最後に、海に流れる。だから、気仙沼の海は栄養たっぷりの豊かな海なのです。

私が、唐桑に調べにいったときは、畠山重篤さんはいませんでした。すると母が「畠山さんはいそがしくて気仙沼にはいないんだね」と言っていました。

しかし、会いたいという願いがかない、12月10日、階上小学校に畠山重篤さんがいらっしゃることになりました。「森は海の恋人」運動のこと。森にある「フラボ酸鉄」が海にとってとても必要なものであること。気仙沼の海は塩水と真水の混じって汽水域であることなど、直接伺うことができました。私も気仙沼の海、階上の海がこれからも、海藻や魚がたくさん住む美しい海であってほしいと強く思いました。そして、そんな海の為に活動している畠山さんはとても素晴らしいと思いました。私にできることを、私なりに見つけていきたいと思いました。

